

# スタッフの素顔



## 吉澤智幸

YOSHIZAWA, Tomoyuki

調査事業部研究員

## 新倉淳史

NIIKURA, Atsushi

企画室副参事  
調査事業部研究員

## 野城良祐

YASHIRO, Ryosuke

総合研究部研究員

### ◆吉澤智幸氏

いつも冷静でクールビューティーな吉澤さんは、2015年7月に社会システム株式会社から出向で来られました。出向元では、主に鉄道分野の業務に従事し、同内容の業務が多い調査事業部でもその知識をいかんなく発揮され、クライアントからの無理難題にも丁寧に対応されています。最近では、航空やサイバーテロ調査と担当内容も幅広になってきたようですが、どんな場面でも的確な発言で議論を進める頼もしい存在です。そんな吉澤さん、その長身を生かして学生時代はスポーツをされていたそうですが、最近のプライベートの様子を伺うと「これという趣味はないけど、強いて言えば…奥さんとのウォーキング」とのこと。独身の私にとっては羨ましい話です。しかし、余計なお世話かもしれませんが、ご多忙の日々の中でもご旅行や新しい趣味探しなど、プライベートも充実させ、リフレッシュし、より一層ご活躍されることを期待しております。

(調査事業部 佐藤宏紀)

### ◆新倉淳史氏

企画室と調査事業部を兼務する彼は、総合研究部の研究活動支援および調査事業部の個別調査を担当しており、いわば、研究所の主要業務の実務を担うキーマンである。特に、研究所で実施するシンポジウム、セミナーなどのイベントは必ず関与し、当研究所の成果をアピールするためには不可欠な存在である。また、調査でも幹線流動の基礎データ構築や、東京、横浜の都市鉄道新線プロジェクトの評価など多様な業務を同時に担当し、かつ、それらを計画的に進める姿は後輩ながら尊敬に値する。一方、私生活も計画的だ。素敵な伴侶を得たと思ったら、早々に将来有望な場所に居を構え、気がついたら昨年二児の父となった。彼が独身時代に語っていた妄想は、現実のものとなり、それは「妄想」ではなく「計画」であったことを認めざるを得ない。現在、彼の「計画」の中では子供は理系大学生となり、大学院進学か否かを検討する段階になっているのであるから、その計画性には恐れ入る。ただ、最近では夜のお付き合いを減らし、趣味のスカッシュも辞められ、家庭内の役割を増やされているようだが、それも計画通りなのかは今度じっくりヒアリングしたい。

(調査事業部 菅生康史)

### ◆野城良祐氏

野城さんは、鉄道・運輸機構からの出向者である。大学(学部・修士)でコンクリート工学を専攻し、鉄道・運輸機構では青森、富山、北海道で新幹線の土木・軌道工事の施工管理に従事された土木技術者である。工事現場から静岡県浜松市の実家に帰省する際、公共交通の乗り継ぎの不便さを実感してきた経験をふまえて「事業者間の連携による異交通機関間のシームレスな乗継ぎに関する研究」に取り組まれている。プログラミングやデータ解析が得意で、膨大な交通データや先進事例を鮮やかに表現し、鉄道・バス・航空等の乗り継ぎ連携の可能性や効果を科学的に分析しておられる。2016年7月から加藤浩徳教授(東京大学大学院)が研究アドバイザーに着任され、厳しくもあたたかいご指導のおかげもあり、野城さんの研究は急ピッチで進展している。趣味は登山であり、心身ともに健康でさわやかな方である。愛妻家でもあり、奥さんと過ごす家庭生活を大切にしている模範的な夫でもある。

(総合研究部 大堀勝正)